

〔様式 1〕

## 事務事業評価表

1～11までは、担当課による評価

記入年月日	平成15年3月13日			
平成15年度	事業コード	12220	電話	042-769-8346
担当部課名	保健所	保健予防	課	精神保健・難病対策 班
事務事業名	難病対策事業（特定疾患保健指導事業）			

## 1 総合計画における位置づけ

政策名	第2章	生涯にわたる健康づくりを進めます	事業開始年度
基本施策名	第2節	市民健康づくりの推進	12年度
施策名	第2施策	保健サービスの充実	

## 2 実施根拠及び関連法令等

難病特別対策推進事業実施要綱
----------------

## 3 事務の区分

自治事務	4 経費の区分	5 事務事業の分類	6 受益者負担
	その他の経費	国庫補助事業	なし

## 7 事業概要

(1)事業の目的...何をどのように(どのような状態に)したいのか	(2)対象(誰、何)
難病患者及びその家族の療養上の不安解消を図るとともに、きめ細やかな支援が必要な難病患者に対し、地域の医療機関・関係行政機関との連携のもとに、適切な在宅支援を提供し、難病患者の生活の質(QOL)を高め、患者・家族を支援することを目的とする。	難病患者及びその家族
	対象数 2,683人
(3)平成14年度事業の内容...市が実際に行った事業の内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問事業 延件数 291人</li> <li>・医療相談事業 8回 参加者 193人</li> <li>・専門医等による相談者数 33人</li> <li>・相談事業 934人(面接 322人 電話 612人)</li> <li>*面接人数については、更新面接延期のため前年度と比較し大幅な減少(1,500人程度)となっている</li> <li>・「患者・家族の会」 16回 260人</li> </ul>	
(4)個別計画の概要	概要
計画名	さがみはら健康プラン21
計画年次	14年度～18年度
	基本目標：健康づくりの実践により、生涯にわたる健康づくりを進めます (3)疾病対策と健康づくり 難治性疾患

## 8 評価指標...事業の目的達成度を計るための指標

	指標名	指標式	指標設定の意図	15,16年度は目標値 指標の推移(年度)				
成果指標	介護度(4.5)利用増減率	前年度介護度(4.5)利用割合÷前々年度介護度(4.5)利用割合 H12:48% H13:38.2% *14年度は更新面接延期の影響で未実施	介護度(4.5)利用増減率から難病患者の生活の質(QOL)をみる	12	13	14	15	16
活動指標	事業利用者増減率	本年度事業利用者数÷前年度事業利用者数*100 H12:2,256人 H13:2,921人 H14:1,606人 (H15:3,000人 H16:3,200人)	事業利用者増減率から難病患者等のニーズをみる		80	92	91	90
				129	55	187	107	

## 9 事業費等の年度別状況

〔金額単位：千円〕

		平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
		決算	決算	決算	予算	予算(見込み)
事業費	決算(予算)額	1,235	1,271	935	1,097	1,097
	人員・時間数	2人・4,353H	2人・4,353H	2人・4,353H	2人・4,353H	2人・4,353H
	人件費	17,013	17,013	17,013	17,013	17,013
	その他経費					
	合計	18,248	18,284	17,948	18,110	18,110
	特定財源	613	621	621	554	554
	対象数	2,093	2,388	2,683	2,978	3,273
	対象の単位あたり経費	8.7	7.7	6.7	6.1	5.5

10 個別評価

(1)達成度 評価 B ▼	A:達成している	チェック項目	・成果指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	B:一部達成していない		・活動指標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
	C:達成していない		・事業目標の達成度 <input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低
		説明	在宅療養支援計画策定・評価事業について、平成15年度から実施する。
(2)必要性 評価 A ▼	A:適応している	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・市民や社会のニーズにかなっている
	B:一部適応していない		<input checked="" type="checkbox"/> ・状況の変化(対象や内容)に対応している
	C:適応していない		<input type="checkbox"/> ・当初設定した事業目的が達成されていない
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・国、県、民間、市民との役割分担から見て、市が事業を行う必要がある 難病患者については、医療を受けながら様々な機関からのサービスを受けている事が多く、そのコーディネートを行う役割として行政の関わりは重要である。
(3)有効性 評価 A ▼	A:有効である	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・上位の施策、計画目的達成のために有効である
	B:一部有効でない		<input type="checkbox"/> ・期待された成果が得られている
	C:有効ではない		
		説明	治療困難なため、長期療養をしいられる患者及び家族に対し、生活の質を高めながら療養支援を行っていく事が重要である。
(4)効率性 評価 A ▼	A:優れている	チェック項目	<input checked="" type="checkbox"/> ・予算や人員に見合った効果が得られている
	B:一部改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他市と比べてコストや効率性が優れている
	C:改善の余地がある		<input type="checkbox"/> ・他の類似事例と比べてコストや効率性が優れている
		説明	<input checked="" type="checkbox"/> ・同一対象者に対して同種のサービスが重複していない 現状では事業利用者が増加する中でも、訪問や相談等保健師の支援体制は図れている。また、難病患者に同種のサービスが重複しないよう関係機関とも連絡調整を図りながら療養支援を行っている。
(5)公平性 評価 B ▼	A:公平である	チェック項目	<input type="checkbox"/> ・対象者と非対象者との不公平・不均衡は、妥当な範囲である
	B:一部公平でない		<input type="checkbox"/> ・受益者の費用負担は適正である
	C:公平でない		<input type="checkbox"/> ・対象者の設定は適切である(年齢や所得等を考慮している)
		説明	難病患者の中でも特に、神経難病の対象者は、医療依存度が高いこともあり、他疾患に比較し関わり頻度が多くなる傾向がみられる。
成果向上の余地		事業費削減のために取り得る手段と削減額	
<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> ない	説明: 今後も在宅療養支援にむけて、他職種との連携を持ちながら、タイムリーなサービスの提供を図っていく。	手段	難病講演会の講師を外部(医療機関等)のみに頼らず、庁内から講師を選出するなどして講師謝礼分を削減した。
		削減額	60 千円

11 総合評価

評価	A ▼	他自治体の類似事業との比較
		他自治体の現状については、職員体制・難病患者の数及び医療機関等の規模等異なるため、比較は行っていない。
今後の進め方		
<input checked="" type="checkbox"/>	継続	総合評価に関する説明
<input type="checkbox"/>	見直し	今年度は難病患者の生活の質を高めるため、居宅生活支援事業のニーズ調査及びヘルパー利用者の実施調査等を行い、今後の関わり方について検討を行った。 また、地域の専門医療機関との事例検討を重ね、より連携がとりやすくなっている状況がみられる。今後も連携のあり方について検討を重ねていく。
<input type="checkbox"/>	廃止	
<input type="checkbox"/>	完了・廃止済	

12 二次評価コメント